

## 寅さんと健康保険

写真は昨年8月刊行『渥美清没後20年 寅さんの向こうに』。この本をたまに書棚から手にする。中日新聞9月19日「山田洋次監督インタビュー」の続き。寅さんにまつわる、こんなエピソードも紹介したい。



「男はつらいよ」シリーズの主人公、フーテンの寅は世間的に言えば、役に立たない人間です。しかし、役に立たなくても、仲間の一人なんだという考えが大事です。もし「あいつは役立たずだから、チームから外しなさい」と言われたら「何を言ってるんだ。あいつは役立たずだけど、俺たちの仲間だから、それはできない」と考えるのがチームというもの。今の世の中は、寅のような役立たずは生きづらいですね。確か26作か27作だったと思います。妹のさくらが旅先の寅さんを心配して「おにいちゃん、今ごろ、どうしてるんだろ」「旅先で病気にでもなったら、心配だわ。健康保険にも入ってないし」というせりふがありました。その映画が封切られて、しばらくたって厚生省(現・厚生労働省)の某課長さんという人から僕の家到手紙が来たのです。こんな内容でした。

「今回の寅さんも大変、おもしろく見ましたが、さくらさんが『お兄ちゃんは健康保険に入っていない』と言っておられたことに、一言、申し上げたい。われわれ、国民皆保険を目指すものとしては、寅さんにも、ぜひ、入っていただきたい。住所不定でも、さくらさんの住所にすれば入れます」僕は偉い公務員がいるんだな、この人は国家公務員の鑑だな、とひどく感心したものです。健康保険に入っていない人を見つけだして、ぜひ、お入りなさい、という努力をこの人はしているのだということ。役人の仕事とはそういうものです。生活保護を受ける資格のある人に、ぜひ、お受けなさい、これはあなたの権利なので、と説得する姿勢。政治とはそうであってほしいと思います。

「国民」と、ひとくくりにして語ったり論じたりするのではなく、一人一人の顔を見て、一人一人に「何か困っていることはありませんか」と語りかける姿勢とでもいうか、つまり寅さんの生き方、ということですけどね。

この「寅さんエピソード」は、初めて知ったが、じつに興味深かった。寅さんの健康保険と公務員のあり方から、日本社会の厳しい現実も見えてくる。生活保護については、受給資格のある人に申請を窓際で「拒否」するようなことも。まさに「民主主義 学び直す時」だ。山田洋次監督と寅さんから、これからも学ぶことは多い。

(2017年9月23日)